

# お話をよく聞く子どもを育てる

聞いたこと、感じたことを自分の言葉で表現する。



み仏さまのお話をする時に注意していることがあります。私のお話は子どもたちへ何が伝わっているのだろうか。

我が子が幼い頃のお話です。

祖母が孫に絵本を読み聞かせをしています。読んでいる祖母は物語に没入しているのか、読みながら笑ったり怒ったり、途中で自分の感想を入れ込んだりしている。孫は読んでくれる祖母を見ながら笑っているようだ。

絵本の読み聞かせにはポイントがあります。こともが物語に集中できるように、はつきり、ゆっくりに、心を込めて読んであげましょう。絵本がよく見えるようにするのも大切です。正しい読み聞かせの方法があります。

ふたりは気付くと寝っ転がって、並んで絵本を読んでいた。「目が悪くなるよ」と言いながら、自分もこうやって絵本を読んでもらっていたのだからな。

私は園長ですが住職として門徒さんのお宅へご法事に回ります。ある若い料理人さんのお宅にお邪魔した法事がありました。お勤めを済ませると、自宅でお斎の準備が始まりました。ご主人が腕をふるって食事の用意をしてくれています。その間、幼い子どもたちと遊んでおりました。しばらくすると座卓に料理が並び、「住職さんはこちらへお座り下さい」と、案内されました。大きなお皿に刺身や料理が盛られております。

なぜか私の周りには子どもたちが集まり「ボクたちもここに座る」と言い始めました。「お坊さんが食べづらいからこっちに座りなさい」と言われても動きません。これは仕方ありません。「ボクは構いませんよ」と言って、子どもたちと一緒にお斎を食べることになりました。

驚いたのですが、幼い子どもたちが真っ先に箸を付けたのは刺身でした。「タイだ」、「マグロ」、「エンガワ」と言いながら次々と食べていきます。幼い頃は刺身を食べない子が多いのではないのでしょうか。この家の家族が一緒に食事をする風景を想像しました。きつとご両親が「美味しいね、美味しいね」と言いながら、刺身を食べているのでしょうかね。

料理人のご主人と話しておりました。「料理人になるために必要なものは何ですか？」と尋ねると、彼は「舌でしょうね」と答えてくれました。「美味しい」を知らなければ美味しい料理は作れませんとご主人の言葉、刺身を食べる子どもたちの姿が重なり領けました。この家族にも物語があります。子どもたちに伝わる「幸せな味」があるのですね。

自分の言ったことが間違えていないだろうかと心配し、恐る恐る表現する姿があります。慎重であることも個性です。これから生きる子どもたちは自分の言葉で安心して表現できる子も良いですよ。

ちゃんとお話ししなさいと言う前に、私たちは子どもたちに何を伝えているのか考えるのも大切です。

村上順滋

## まことの保育の願い